

「アガリクス」復調の兆し



特別インタビュー

アガリクス・ブラゼイ協議会 竹口雅之理事長に聞く

最盛期で約400億円といわれたアガリクス市場。しかし相次ぐ逆風によって現在では100〜150億円程度にまで縮小してしまっている。そうしたなか今年2月に発足したアガリクス・ブラゼイ協議会は、アガリクスの正統性を含めた本質を知らしめるために、かつまた業界における自助努力の明確な姿勢を打ち出しながらアガリクス業界の復興を目指して活動してきた。ようやく復調の兆しをみせるアガリクス業界について、同協議会理事長の竹口雅之氏に話を聞いた。

業界の自助努力が結実へ

厚生労働省研究班がアガリクスの臨床試験をはじめるとの報道があった。これまでの経緯を考えると、大きな前進といえるが、

竹口 06年2月に厚生労働省が発表した一部のメーカーに対する発表をはじめ、風評被害で業界各社は試験の時

期を迎えた。それでもアガリクスの本質を理解してくれている消費者と各社の企業努力によって、市場は縮小しながらもアガリクスへの認知と期待は保たれてきた。このたびの厚生労働省による臨床試験の着手は、アガリクスの正統性を裏つけることでもあり、今後への明るい話題になる。しかし、これまでの経緯に関して報告される安全性を含めた厚生労働省の最終報告があつて、復調へのスタートラインにつけるものと考えている。

アガリクス業界の復興を目指し発足した協議会だが、その果たした役割について聞きたい。

竹口 協議会として力を入れて取り組んできたのが、安全性に関する自主ガイドラインの策定。会員企業には原材料の安全性基準について、使

用部位、栽培地、製品工場の確認など原材料のトレーサビリティの徹底を課すと同時に、食品衛生法で定められている基準の遵守はもちろんのこと、動物を用いた単回ならびに反復経口投与試験（90日以上）、遺伝毒性試験などを義務づけている。さらに個別商品の安全性基準として、10名程度のヒトによる4週間程度の過剰摂取試験（3倍量以上）などを策定し、実施してきた。食品に関する業界団体としてここまで厳格な安全性基準を導入しているところはな

いのではないだろうか。

——市場が縮小したことにより、経営的にも厳しくなった企業が多いと聞く。自主基準のハードルの高さは、中小零細のアガリクス取り扱い企業にとつてどうなのか？

竹口 現在の加盟企業は正会員15社、賛助会員5社、事務局1社。市場のおおよそ70%のシェアを占めているとの見込みがある。たしかに自主基準のハードルの高さは、加盟企業以外の企業にとつては資金的にも困難というところがあるかもしれない。しかし現状として、協議会がおこなわなければならないことは、業界団体としてアガリクスの信頼回復に注力すること。そのためには自助努力をもつて対外的にもその存在や活動について理解を得ることが必要だ。ただし誤解してほしくないのは、加盟企業以外を切り捨てるといった考えはまったくない。現状を打破するため、協議会が業界をリードし、アガリクスに対する安心と信頼を再び勝ち得ること。それが業界ならびに



「アガリクス・ブラゼイ協議会」
03-5537-3810
www.agaricus-blazey.jp